



12月号 平成29年11月30日発行
荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [Tel 911-0149]
アドレス [http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]

Why? (どうして)

校長 澤田 有子

「校長先生は、どうして続けたいと思うのですか。」

と、本校のある先生に聞かれました。時代の流れと共に必要であること、必要とされることは、どんどん変わっていきます。同時に、これまで続けてきたことも、今後、内容等を変えて行うことも含めて続けていくのか、それともここで終わりにするのか、判断を迫られます。

この質問は、毎年行ってきた『どんど焼き』(PTA 主催)についての質問です。本年度は田んぼが小さくなったため、これまで稲刈りを終えた荏田っ子でんでんで行って来た、大きな火の手(5~6m)が上がるどんど焼きを開催することは難しくなりました。長年にわたり子どもたちやお家のみな様、荏田のまちのみな様の無病息災と五穀豊穰を願いながら行って来た、日本の伝統行事の一つでもあるどんど焼きでしたが、荏田小の子どもたちのためには、今後どのようにしていくのがよいのでしょうか。

結局、PTAのご理解とご協力をこれまで通りいただくことができ、規模的には小さくなりますが、続けていくことになりました。

本校の「米づくりプロジェクト」は、子どもたちの活動(5年生のお米リーダーを中心にを行う育苗、田植え、稲刈り、脱穀、精米等、一粒の米を得るまでの多くの作業)を縦糸に、その活動を支える保護者や地域の方々のご支援とご協力、並びに農耕文化の伝承(餅つき、しめ縄づくり、どんど焼き等)を横糸に、一枚の織物をみんなで織り上げていくようなプロジェクトと言えます。もちろん荏田小職員も、太い斜め糸として、この縦糸と横糸をしっかりと結びつけています。



「どんど焼きを、どうして続けたいと思うのですか。」

それは、子どもたちに大きな火を体験させたいという思いがあるからです。人間は火を得たことで暖を取ることができ、その火で食べ物を調理し、外敵から身を守ることもできるようになりました。そして、文明を進歩発展させてきました。しかし、今日の日本では、特に都市部においては、たき火をすることもままならず、火を使い、火の熱さ、温かさを体感できる機会はほとんどありません。このままでは自然界で生きながらえている、生き物としての原点を忘れてしまいそうです。だからこそ、一年に一度ですが、どんど焼きという大きな火を体験できる行事を絶やさずに行いたいと思うのです。小学校時代には、次の時代の学びに必要な学習の基礎基本と学び方の基礎基本の習得を目指しますが、知識やテクノロジーの習得だけではなく、豊かな人格形成に向けての土壌をつくるための体験も、とても大切であると考えています。

本年も、もちつき祭りを無事に終えることができました。PTA役員の皆様、保護者・地域ボランティアの皆様にご心より感謝申し上げます。

子どもたちの心と体の健やかなる成長を目指して、本校養護教諭による『荏田小学校健康カリキュラム』に則った授業を全学年で行っています。

養護教諭による保健学習



栄養教諭による食育



給食ネットワーク校である中川西小学校の栄養教諭による『荏田小学校食育計画』に則った食育を全学年で行っています。